【　天皇制について】

日本人の思想や宗教・行動規範はすべてを自然から教えられてきたのだ。また神話時代の道徳が現代に生きているのは珍しい国でもある。日本は欧米のように人格神は認めない自然科学の国といえる。それは古事記を見ると分かる。自然そのものが神より先にあるのである。西洋の一神教では「神が自然を創った」とするが日本では「自然が神を生ぜしめた」ので順番が逆で、日本人と西洋人とでは世界観が決定的に違う。

日本人は「古事記や日本書紀」以前から、神も自然から生まれてきたという解釈をしてきた。自然が人間に教える「道」は、ひたすら自然に従って生きるという重要性であり、自然に逆らわぬ為にはどうすれば良いかを教えるのが神道でもある。日本神話が示すのは「年功序列の原理」であり、年上が偉いことを示す。西洋は実力主義であることを西欧の神話は示している。先に生まれた人が敬われる存在であり、後に生まれたものは絶えず敬う存在なのである。この秩序感が一番自然であることを神話は強調している。

注 1）古事記
日本最古の歴史書。その序によれば、和銅 5 年（712 年）に太安万侶（おおのやすまろ）が編纂し、元明天皇に献上された。

注 2）日本書紀
奈良時代に成立した日本の歴史書。日本に伝存する最古の正史で、六国史の第一にあたる。舎人（とねり）親王らの撰で、養老 4 年（720 年）に完成した。神代から持統天皇の時代までを扱う。

戦後高度成長期に日本の強さを支えた「年功序列」「倫理観」に繋がってもいる。この「年功序列」の秩序観は道徳観や宗教観にも及んで行き、人生の長さ・生きてきた時間の長さで敬われる秩序が生まれた。何百年も生きている大木や岩も尊い対象として、注連縄（シメナワ）をめぐらし手を合わすのである。

天皇が尊いのは、神話の時代から１２５代も一系の家系が続いているからである。重要なのはその歴史の長さであり、その長い歴史を守ってきたということが尊敬の対象であって、その能力主義ではない。

今、「能力主義を日本が導入したのは失敗であった」と７割近くの会社員は回答している。進化論に基づいて淘汰されて、残った最も優秀な人間が悪人である可能性は否定できぬ。だからこそその上に神聖なるものを必要とするのである。今、自然で美しい秩序を何千年も保っている日本を世界中が「うらやましい」存在として賛美している。

縄文時代から古代人が抱いた、自然から教えられた「年功序列」や「長幼の序」等の道徳観は古事記を生み、古事記は亡国や致命的な争いを避けようとする国創りのシステムや政治的システムの原点である天皇制を日本に定着せしめた。関白や将軍らの天皇以外の権力や、幕府という権力が生まれたが、古事記で確立された天皇の権威は残した。即ち権威を有すれど、権力を行使せず、という権力を行使する実力者の上に尊い家柄が常に位置する、という「日本の宝」とも言える亡国や争いを避ける仕組みを日本人は厳守して来たのである。

初代　神武天皇

日本人は自然から人間性の本質（欲望等の）を見据え、自らが自らを自制するシステムを考え出したのではなかろうか？

平成２８年８月３０日

志雲会塾長　有馬正能